



学会で多くの研究発表

～日本病院学会では優秀演題賞～

■日本医療マネジメント学会が6月24日～25日、京都市勧業館みやこめっせ及び京都会館で開催されました。今年のメインテーマは「地域で守る患者中心の医療～チーム医療と医療連携」。

全国から4,700名を超える医療従事者が参加しました。当院からは①「在宅退院者のADL等のチェックについて～寝たきり予防パスの試案からの運用～」②「大津市における脳卒中地域連携クリティカルパスの経過報告～在宅診療計画について～」③「褥瘡改善に向けての一考察～認知症・パーキンソン病の高齢者の事例より～」の3題の研究発表を行いました。また地域連携ネットワークのセッションでは当院が座長を務めました。

■日本病院学会が7月14日～15日、東京京王プラザホテルで開催されました。今年の学会テーマは「医療の質向上を目指して～生きた有機体としての病院～」。



当院からは①「寝たきり予防パスの試案・導入について～在宅患者のADL・運動機能の変化から～」②入院患者が望む排泄方法～排泄方法の改善に向けて、入院患者のアンケート調査から～」③「卒後教育についてのアンケート調査結果報告」の3題の研究発表を行いました。また昨年の学会での優秀演題として当院「通所系サービス事業所の独自の指標を用いた人員配置」が選ばれ表彰を受けました。

本学会では記念講演として「生き方上手」などの著者として高名な日野原重明先生（聖路加国際病院理事長）が「病院医療の将来」について語られました。とても99歳とは思えぬ「始めることを忘れなければ老いることはありません」の言葉通りの元気いっぱいの講演に感動を覚えました。

暑中お見舞い申し上げます

診療科のご紹介・・・・・・・・

内科診察室から

当院では、一般内科として、内科系疾患の総合的な診断や治療を行っています。特に「生活習慣病」と呼ばれる、糖尿病・高脂血症・高コレステロール血症・高血圧症などの疾患について、合併症の検査や食事・運動等の生活指導を行いながら治療をしています。必要に応じて、専門医や、他の病院への紹介も行っています。

特に高齢者の患者さまに対しては、疾患が単一ではない場合が多いため、一つの症状や臓器にとらわれることなく、総合的な視点や各臓器の相互関係を念頭においた治療をめざしています。

その他、消化器疾患や血液疾患に対する対応や、インフルエンザ・肺炎球菌・子宮頸癌などの予防接種と、各種の検診も行っています。

副院長 速水 眞二

リハビリテーション科診察室から

リハビリテーション医療は、基本的動作能力の回復等を目的とした理学療法、応用的動作能力・社会的適応能力の回復等を目的とした作業療法、言語聴覚能力の回復等を目的とした言語聴覚療法等により構成され、いずれも実用的な日常生活における諸活動の実現を目的として行われます。疾患別に「心大血管疾患」「脳血管疾患」「運動器」「呼吸器」に分かれ、当院では「脳血管疾患」と「運動器」のリハビリテーション治療を施行しています。「脳血管疾患」とは、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患、脳腫瘍・脊髄腫瘍などの中枢神経疾患、パーキンソン病などの神経疾患、失語症・認知症などの高次脳機能障害、寝たきりや動かないで起る廃用症候群を有する人を対象とします。「運動器」とは、上下肢・骨盤などの骨折、関節の変性・炎症性疾患を有する人を対象とします。

リハビリテーション科 藤井 義宣